

令和4年度学校自己評価システムシート (県立上尾鷹の台高等学校)

目指す学校像	「志、高く。思い、深く。夢、羽ばたく」学校
--------	-----------------------

重点目標	1 目標を持ち、自らの進路実現に向けて主体的に取り組む生徒を育む。 2 高い「志」を持ち、多くのことに積極的に挑戦するたくましい生徒を育む。 3 思いやりと感謝の心を持って他者とともに生き、ルールをしっかり守る生徒を育む。 4 地域とのネットワークをとおして、地域課題を解決し、自らの資質能力を高める生徒を育む。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	9名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標					年度評価 (令和5年 1月26日 現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に則り、主体的・対話的・深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む必要がある。ICTを最大限に活用した学びについても促進していく一方で対面指導も大切にしていく。 ・学習意欲を喚起し、生徒一人ひとりの進路希望に応じた多様な可能性を伸ばす教育活動を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを効果的に活用した授業の充実 ・生徒の表現力を伸ばし主体的に学ばせる授業の研究開発促進 	①ICTを活用した教材の共有化の推進(通年) ②思考力・表現力・判断力を測る調査やパフォーマンス評価の研究(通年)	①教職員のICT活用スキルの向上と授業等での実践機会の増加 ②生徒アンケートにより、生徒の授業理解度・満足度・学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・目標をほぼ達成できた。 ①ICT活用に係る職員研修会を年3回実施。「ICTを効果的に活用した授業の充実に取り組んでいる」教員の割合(教員アンケート) 83.3% ②授業はわかりやすい 85.8%、学習意欲度 86.6% 	A	①1人1台端末の導入を見据えて、個別最適な学習や探究的な学習等をより効果的にできるシステム研究を進めていく。 ②引き続き、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業研究を行っていく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路意識を高めるための体系的・系統的な指導の実施 	①進路行事実施後の振り返り実施(各学期) ②進路ガイダンスや各種補習、実力テストの計画的な実施(各学期)	①科目選択の適切性・進路実現への取組・進路達成度の前年度割合の維持 ②進路行事への意欲度・補習参加生徒数・実力テスト参加者数の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を概ね達成できた。 ①進路達成状況は、92.3%。「進路・適性を考えた科目選択」ができた生徒の割合 90.1% ②「進路行事に意欲的に参加した」生徒の割合 97.5%「進路実現に向けて補習に参加したことがある」 41.1% 	B	①高い目標を持ち、自らの進路実現に向けて、多くのことに挑戦することができる生徒を育成していく。 ②長期休業中の補習への参加を促進していく。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・教室内外の活動において他の生徒と学びあい、多様な考え方に触れ、切磋琢磨することで社会性・人間性を育むことが求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体的活動を支援する行事の充実 	①教育効果の高い学校行事の実施及び部活動等による学校生活の充実(通年) ②共同植樹、野外コンサート、スポーツ交流、学習ボランティア等の継続実施と、異校種交流等の検討(各行事毎)	①生徒アンケートにより、学校行事及び部活動等に意欲的・主体的に取り組む生徒の増加 ②生徒の学校生活への満足度の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を概ね達成できた。 ①学校行事への主体的参加 93.1% 部活動への主体的参加 69.6% ②学校生活満足度 79.4% 	B	①②学校行事、部活動が生徒の力を育成していることはループリック評価からも実証されている。 今後は、普段の各教科の授業や総合的な探究の時間においても、様々な力を育成していく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒との信頼関係構築や保護者との連携の強化 	①不登校の生徒への個に応じた支援の実施(通年) ②成績やルールについて、生徒・保護者への適切な情報提供(各学期)	①SC、SSW等外部支援の活用及び研修会の実施 ②生徒・保護者の本校への教育活動への理解・信頼度・満足度の上昇(学校評価アンケート)	<ul style="list-style-type: none"> ・目標をほぼ達成できた。 ①SC、SSW相談要請15件、オンラインSC相談件数7件。不登校に係る教育相談研修会実施(2月)。 ②保護者の満足度 85.2%、「学力を伸ばしている」と思う割合 77.9%、「生徒を理解し、生徒に合った指導をしている」と思う割合 83.6%。「保護者へ適切に情報提供を行っている」教員の割合 100%。 	A	①オンラインSCの活用で、困っている生徒へすぐに対応することができた。カウンセリングだけではなくチームで対応する力も高めていく。 ②観点別評価の評価方法、基準について今後も見直し、改善していく。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校や悩みを抱えた生徒の対応が求められている。教職員のスキルの向上が急務である。また、成年年齢の引き下げに伴い、一人の「大人」としての振る舞いや実社会で様々な課題に直面した際に対応できる力を身に付けさせる必要がある。 ・質の高い教育を行うためには教職員自身が心身ともに健康であることが不可欠である。学校がより楽しく魅力あふれる場となるためにも教員の働き方改革が急がれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校業務のデジタル化・効率化の推進 	①各分掌等による業務の精選と見直しの実施(9月までに) ②打ち合わせや会議のデジタル化の推進(通年)	①各分掌等の業務の精選、見直しの進捗度 ②ペーパーレス化等による教職員の負担軽減度	<ul style="list-style-type: none"> ・目標をほぼ達成できた。 ①業務の改善見直し案30プラン ②職員朝会の時間短縮、職員会議のペーパーレス化達成 	A	①今後も継続的に業務の効率化・改善について検討していく。 ②学校業務のDX化は負担軽減につながっている。今後は授業や採点業務でもDX化を進めていく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域への情報提供による信頼関係の構築 	①連絡デジタルツールを活用した保護者への適切な情報提供(通年) ②学校評議員会・評価懇話会やPTAとの懇談会における適切な情報提供(6月、2月)	①ツールの活用状況 ②学校評議員会・評価懇話会での学校関係者評価の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を概ね達成できた。 ①「デジタルツールを積極的に活用している」教員の割合 77.7% 保護者については、ほぼ浸透。 ②予定通り実施。第2回において授業見学を実施予定。(2月) 	B	①デジタルツールによる家庭との連絡等の効率化が図れた。次年度は、より保護者にとって役立つ情報を提供していく。 ②地域の学校等とオンライン交流の実施を検討したい。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA 行事や地域連携行事がコロナ禍で縮小してしまった。今後の在り方について検討する必要がある。また、運用を開始した学校・保護者等間連絡デジタルツールを積極的に活用していく。 ・本校の魅力を地域の小・中学生に積極的に発信していく。また、地域とのネットワークを大切に、地域課題に協働して取り組む学校づくりを進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒募集の工夫 ・部活動による小・中学校、地域との交流の実施 	①生徒の活躍を見せる学校説明会の実施(2、3学期) ②近隣の小・中学校における部活動による交流事業実施(1、2学期)	①説明会参加者及び入学希望者の増加 ②交流事業の実施回数及び内容の充実度	<ul style="list-style-type: none"> ・目標をほぼ達成できた。 ①説明会参加者 588名、入学希望者 208名。(1月14日現在) ②男女バスケットボール部が市内小学校3校で実施(12、2月) 	A	①引き続き、中学生向け高校説明会や部活動体験を工夫して行っていく。 ②小中学校の他にも地域とのつながりを開拓していく。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和5年 2月 7日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に移行したが、昔ながらの一斉授業をしている教員はいないか。 ・PCを使ったり、グループを作ったりして、生徒たちが和やかに授業に取り組んでいた。 ・主体的・対話的で特に深い学びを実践してほしい。 ・ほとんどの先生がスライドなどを用いた授業を行っていて、授業はとてわかりやすい。 ・進路行事への参加率が減少したことについて要因を分析すべき。 ・高校入学時に提出している「キャリアパスポート」は高校でどのように活用しているか ・2学期に進路が決定し安堵した。進路先がここまで決まっていることに感謝している。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナにより夢の高校生活が複雑なスタートであったが、修学旅行や遠足が生徒にとってはとても良い思い出となっている。 ・生徒の生き方の育成、個性の増進をしていく教育活動、組織運営を大事にしてほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・すべての教科・科目の成績についての説明がほしい。 ・高校での働き方改革と学校職員の時間外在職等の時間について、気になるところである。 ・学校組織、教員が「鷹の台らしい」部分を生かして教育活動を実践していただけることを尊重する日々の時間があつた方がよいと思う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会で生徒会が運営している部分があるが、中学生や保護者にも雰囲気の良いさは伝わっていると思う。 ・高校生とのバスケットを通しての交流は大変ありがたかった。寒い中であつたが、感謝している。次年度以降も継続してほしい。きびきびとしていた生徒の姿が印象的で、小学生はその姿からも多くのことを学び得ていた。 	

